

化学防護服専用 ハーネス型安全帯の概要

中央消防署 八木大五郎・浅海敬太
東消防署 森本 大樹

1 開発の経緯

生物・化学剤によるテロ災害や原子力施設での災害などが発生した場合、原因物資が推定できるまでは、空気呼吸器を装着したままで、陽圧式化学防護服を着装し活動することが必要です。しかし、これまで化学防護服を着装した状態で、有効な進入経路がない地下などでの活動は、あまり検討されていませんでした。

そこで、松山市消防局では、このような状況下での活動を補助するハーネス型安全帯を民間企業と共同で開発しました。



化学防護服

2 開発のポイント

ロープを用いて地下への昇り降りをする場合、かなりの加重がかかり、防護服が破損する恐れがあることから、防護服を破損させることがない形状としました。

また、昇降時にバランスを取りやすく、活動しやすいものとしてしました。



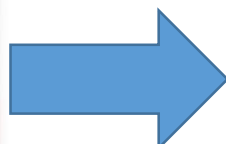
ハーネス型安全帯



装着状態

従来の安全帯では
低所・高所への進入が困難

安全・確実な
立体的活動が可能に



ハーネス型安全帯
の開発

